

サロン・あべの

Vol. 119



へサロン・あべのV十一一年目スタート

サロン・あべの4月の出会い
96年4月20日(土)午後1時
から育徳コミュニティセンター
2階研修室において、サロン・

あべのの4月の出会いを開催し
た。

パネラーは童夢KANSAI
のメンバーであり、昨年ピース

ボートで世界一周をされた河江^{なづみ}
孝美^{あづみ}さんであった。世界地図を
たどりながら、各寄港地(国)
での思い出や感想を交えながら
お話しをしていただいた。

河江さんは脳性マヒ(CP)
の障害者だが、かなり軽度で、
小・中・高校と普通校に学んだ。
一旦は社会人になるが、旅する
ことに夢を求めて会社を辞めて
しまったそうである。

世界一周へのきっかけは、昨
年の阪神大震災である。宝塚市
在住の彼女はその震災体験から、
「死」は年齢に関係なく来るこ
とを知り、やりたいことは出来
る時にするという考え方を持つ
ようになり、世界一周という夢
を実行にうつしたのである。

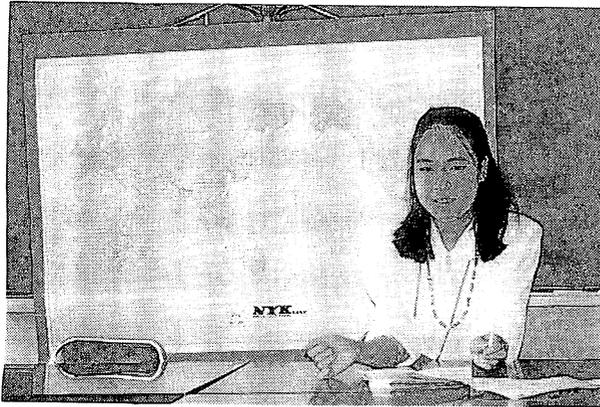
昨年6月27日に東京の晴海を
出港し10月17日に帰港するとい

う、約4カ月に及ぶ船旅であっ
た。船はロシアの客船で、乗客
は300人ほどであった。乗員
はロシア人とオーストラリア人
で、医者や看護婦などを含めて
200人ほどであった。

船は、まず中国へ。ベトナム、
シンガポール、スリランカを経
て、アフリカ大陸へと向かう。
エリトリアからスエズ運河を通
り、エジプトへ。イスラエルか
らギリシャ、地中海を渡りフラ
ンスへ。再びアフリカに戻り、
モロッコ、セネガルと寄港した
後、大西洋を横断してアメリカ
大陸のブラジル、ベネゼエラへ。
キューバからパナマ運河を通っ
て太平洋側へ。エルサルバドル、
メキシコ、カナダと寄港し日本
に戻った。

飛行機と違い、この船の場合

はあくまでも香港。入国手続きは簡単だが長く滞在することはできない。航海中もちろん船内で過ごすわけだが、講演会などのイベントがあり退屈はしなかった。気になる費用の方は、船内での食事付きで、4人部屋(2段ベット)で100万円余り。部屋の広さなどで違い、もっと高いクラスもある。船外で



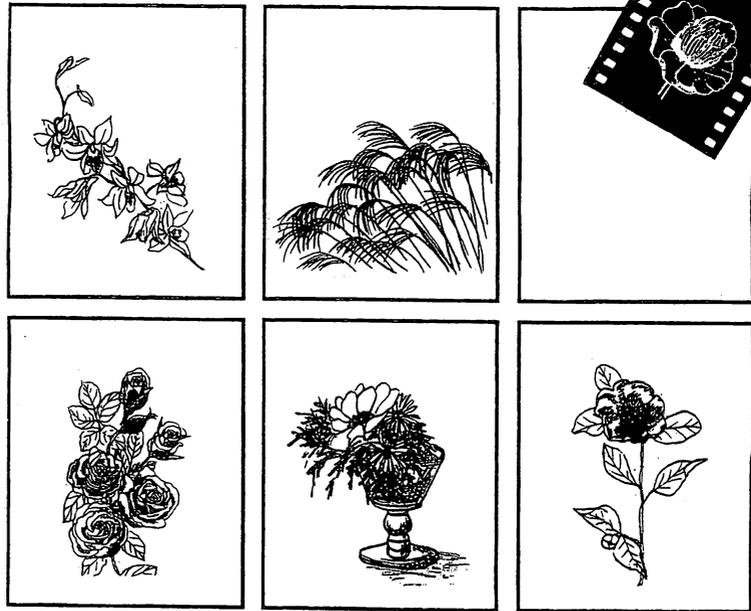
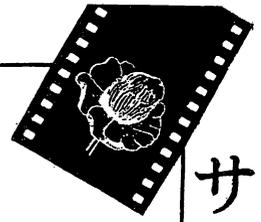
河江孝美氏

の行動は、すべて実費である。参加者の年齢は10代から70代までいた。車椅子の人も参加していて、参加者の中で介護チームを組み、いっしょに行動していた。

紙面の都合で、各国での思い出や感想については割愛させていただきますが、当日は記念のアルバムも回覧していただき、本当に良い体験をされたことに、出合いの参加者も一様にうらやましい思いであった。

最後に、彼女が所属している童夢KANSAIについてのであるが、障害者の旅についての情報を収集し、提供していこうとしているグループである。関東には障害者のための交通や宿泊について、相談に乗ってくれる機関があるが、関西にはまだないことから始まった。現在はまだ遊びが主ではあるが、関心を持たれた方は、代表の亀山英昭

サロンの絵葉書



1組5枚セット¥150

さん電話078(411)7178へ連絡されてみてはどうだろうか。

また、次回のピースポート世界一周は、96年12月6日から翌

97年3月20日までの予定である。お問い合わせは、ジャパングレイス電話03(3363)7561まで。

参加者25名。(上平幸雄)

知的障害のある人の支援体制づくり 2 阿部 幸恵

先回は、ピープル・ファーストという本人活動、また、支援の概念について簡単に触れました。今回は知的障害のある人の周辺についてふれてみます。

◆0、周辺について◆

障害

まず、「障害」とは何を指すのでしょうか。WHO(世界保健機関)は次のように分類しています。

- 一、機能・形態障害 (impairment)
 - 一次的障害、生物学的レベルでの障害
- 二、能力障害 (disability)
 - 二次的障害、個人・日常生活レベルでの障害
- 三、社会的不利 (handicap)
 - 三次的障害、社会的レベルでの障害

例えば、生まれてくる時に脳の一部

を損傷したことは一の機能・形態障害であり、そのために、読み・書き・計算がむずかしくなることが二の能力障害、その結果、就職ができないというのが三の社会的不利です。

問題とされる「障害」とは、結果として生じる「社会的不利」を指します。個人の中にある障害を指すではありません。

「障害」は個人とその環境との関係の中で生じます。そして、社会的不利という障害をなくしていくことで誰もが平等に参加できるのです。

知的障害

以上をふまえて、今度は知的障害について考えてみます。知的に障害のあることは、これまで「知恵遅れ」「精神薄弱」「精神遅滞」と表されてきました。法律上は「精神薄弱」という用語がまだ使用されていますが、今日「知的障害」という用語が主流です。

知的障害という用語が使われ始めたのは近年のことです。一九九〇年八月にパリで行われた国際知的障害者育成連盟(ILSMH)の会議に日本から知的障害のある本人がはじめて参加しました。その会場で本人の意向から「知的障害」という訳が使われたということです。また、その後の一九九一年一月全日本精神薄弱者育成会第四十回大会で、「『精神薄弱』という呼び方を別の言葉に変えて下さい」という決議文が本人から出されました。そして、「知的障害」の方がまだ使いやすい、抵抗が少ないということになったのです。

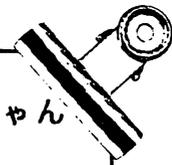
これらが意味することは、用語の新旧ではありません。「知恵遅れ」や「精神薄弱者」と一くりにされるのではなく、あくまで一人の人間としてみてほしい、という本人の強いメッセージが表れています。

つまり、先に述べた障害の捉え方と同様、知的障害がその人の中にあることが問題ではなく、社会の中での住みにくさが問題なのです。そして、近年になって、その主張が本人やその周辺の人々からきかれるようになってきました。

セルフ・アドヴォカシー

障害は社会の中にある、ということ、は、よくいわれるノーマライゼーション

ンという概念に当たります。現代の社会福祉を象徴する言葉にもなっています。この概念は北欧の知的障害のある人の周辺の運動から始まりました。一九五〇年代にデンマークの全国親



おもしろい 姉ちゃん

男の子担当。でも、キレイ

知的障害の分野から、訳も分からないうまま養護施設に移ってもう一年です。

何が違うって、恋愛に関して対等に話が出来ることにはびつくりです。高校生になると、興味津々で、いろんなことを聞いてくるんですね。若い男の子と、恋愛に関して話した後、

「先生も頑張りや」

などと慰められることもしばしば。

しかし、不思議なのは男の子が口を揃えて

「女子の担当の先生はきれい」

の会が子ども施設の施設処遇に抗議したところがノーマライゼーションの概念を現実のものとしたのです。その人に障害があるからといって、施設にされるがままになるのではなく、人間らしく生



と云うこと。

確かに、更衣にかかる時間からして違う(年齢は変わらないのに)。

男の子とつきあううちに化粧なんてどうでもよくなるのか、はたまた最初からそういう人が選ばれるのか。当然、私は男の子担当です。

田 淵 美登利

きる権利を施設に訴え、改善を求めていったのです。

また、スウェーデンでも一九五二年に親の会(FUB)ができました。そして一九八〇年には知的障害のある本人が親の会の正式会員として迎えられ、親のサポートを受ける形で本人の活動が盛んになっていきます。この活動が知的障害のある人による権利運動を可能にさせました。

本人による権利擁護運動を「セルフ・アドヴォカシー(self-advocacy)」と言います。このセルフ・アドヴォカシーが知的障害のある人に新しい風をふきこみました。

日本にも知的障害のある人の参加する団体は以前からありましたが、お楽しみ会的な活動が中心でした。また、その企画・運営は周囲の人々に責任があり、本人はただ参加させられているだけといったところが大半でした。ここ数年、新しいタイプの本人の会が増えてきました。育成会(親の会)からは、東京を中心とした「さくら会」、札幌市の「みんなの会」、伊達市の「わかば会」、大阪の「なかまの会」等の本人の会があります。また、先回紹介した欧米に広がっている本人の会であるピープル・ファーストの日本版をつくろうと東京・静岡・大阪・神戸で準備が進められています。その他、全国で多くの団体が新しい活動を繰り

広げています。
従来のもと決定的に異なるのは、本人の責任の下に企画・運営がなされていること、団体がセルフ・アドヴォカシーを意識していることです。また、そうでなくては従来の団体と何ら変わりがないこととなります。

新しい支援観

新しい活動を可能にしたのは新しい支援観があることがその要因の一つとして挙げられます。「セルフ・アドヴォカシー(自己による権利擁護)を支援する」、「自立を支援する」。少し考えてみると、本人のことに他の人が入り込み「セルフ・アドヴォカシー」「自立」にはならないのではないかと思われます。しかし、身体障害のある

人が自己決定のもと、介助者の力を得て、施設や親元から離れて「自立」を獲得したように、知的障害のある人にも同じことがいえるのです。ただ、留意する点は、身体障害の介助が動作の支援であるならば、知的障害の場合は意思決定に至るまでの思想に及ぶ支援であるということです。

セルフ・アドヴォカシーを原点にすることは団体に限ったことではありません。いうまでもなく、一個人においても同じです。ひとり一人にあった生活が保障されなくてはなりません。それには、それぞれに合った支援が必要です。施設処遇のように、型にはめられた生活がそこにいる人全員に提供されるのではなく、個々にあった生活設計を本人が要求し、それを個別に支援

していくのです。そのような生活設計を「個別プログラム」といいます。支援する人を「個別援助者」といいます。支援を希望する人は個別支援者とともに個別プログラムを作成します。

外出支援を中心とした大阪市のガイドヘルパー制度を初め、日本でも近年知的障害のある人の支援体制づくりが進められています。生活プログラムづくりの取り組みも各地で見られますが、知的障害のある人に保障された制度と至っていません。次回からは、国外の進んだ例を紹介いたします。

△さるん亭△の品物そろそろ
「用意お願いします……ね。」

★人ひとりの重み

もしも誰かと出会ったなら、少しの間、目をつぶって、その人が産まれるときの、あなたのまだ知らない一人の女性の痛みと喜びを想像してみよう。そして、それを迎えた、あなたのまだ知らない一人の男性の戸惑いと決意を思ってみよう。それから、その人をは

じめてとり上げた人の手と汗を考え、その初めての泣き顔をのぞきこんだ、多くの温かい目と笑みを浮かべた唇を心に浮かべてみたい。
その子が、どんな子であれ、その指で摘む花の数だけ生きることの美しさを学んでいく。そして、その小さな足

で遊びながら踏みつけた虫たちの数だけ、いのちの深さに気づくのである。
その子が、生まれたころよりずっと大きくなるのは、植物たちの長い時間と働きの実りを受け、豚や牛や鶏たちの無数の命が、その子のために費やされたから。多くの清らかな水や空気も、

その子の命のために使われてきた。

その子が大人になり、晴れた青空のもとで深呼吸して幸せを感じるようになるまでには、多くの人たちの時間と労力が必要だった。命を削るようになって、その子を育てた両親や家族、夜おそくまで、その子を思いつづけた小学校や中学校の教師たち、日記を交換した思春期の友だちや、その人に無垢な愛を打ち明けた若者も、いまでは、すっかりその人の前から消えていても、その人の今日の心は、そんな多くの人々の思いを受けて豊かになったのだ。子どものころに使われた机や椅子は、もうゴミとなつて捨てられ形を失っているだろうが、その人だけのために費



やされたに違いない。無数のページのノートや紙、鉛筆や本の類も、その人が成長するために求められた。打ち捨てられた衣類や靴も、その人の体の大きさに合わせて、つぎつぎに用意されてきたものだ。

その人と出会いたいと願うのなら、その命が脱ぎ捨ててきた衣服や靴のはるかな量に思いを寄せたい。その体を洗うためにどれほど多くの清らかな水が使われ、その血と肉をつくりだすために、どれだけ多くの植物の種が芽生えることなく消え、どれほど多くの家畜たちが痛みを受けながら、その肉を削(そ)がれたのかを考えよう。どれほど多くの人たちの愛を受け、その人を自分の命のように愛しく思い、またかつてそう思った人がいたことを思いだしたい。

あなたの目の前にいる人は、水を沸かせば、たちまちに立ち上る湯気の形のように揺らいでいるのではない。どのような人も、それぞれに長い歴史をもち、命のあるもの、ないものを問わ

ず数えきれない犠牲のうえに、いまの生を歩んでいる。

人とかかわるときは、その人だけに費やされ、いまは見えないところに隠された犠牲の重さを感じたい。私もまた、その人を支える厚い地層の上に、わずかに横たわる、ひと撒きの土になることを思いながら。

(知)

~~~~~朗読テープのご案内~~~~~

「アベノ朗読ボランティアグループ」の協力で、ハサロン・あべのV紙一一八号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一一八号の分があります。五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作・絵Ⅱ中川勝彦、「ラジオたんぱ」(三〇分)放送の『ハサロン・あべのV平成七年五月の出会い』もあります。いずれもご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。

( ☎ 〇六 一六九 一 一〇二八 )

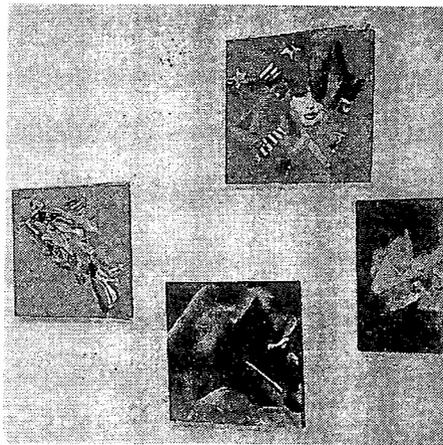
# 作る つくる 創る 河合恵子

からだと表現

新緑の五月。思わずからだも心も伸びやかになる季節ですね。

先日、友人に誘われて現在スイス・ローザンヌに本拠を置くモーリス・ベジャール・バレエ団の「愛が私に語りかけるもの」を見に行きました。これは一九九二年に亡くなった天才ダンサー、ジョルジュ・ドンに捧げるプログラムでマーラーの交響曲を中心に、アフリカ音楽や日本の雅楽を加えた十二の作品によって構成されたバレエ。用いられた音楽もさることながら、それぞれ、古典的なバレエとは異なった斬新な振り付けにびっくり。次々、美しいカタチ、ユニークなカタチが舞台の上に現れては、消えていきます。

そこで思い出したのが三月から四月、目黒美術館で開かれた「描かれたからだ」と題する展覧会のワークショップ。そのひとつは若手の舞踊家による「か



ヌードと分からないオシャレなパネル

らだから生まれる形と動きイメージの身体表現」。小学三年生以上の参加者はからだをゆったりと柔軟にほぐしたあと、展覧会場内の作品の前で作品の人物と同じポーズを形作ってみたり、

そこから次の動きにゆっくり発展させたり・・・この一風変わった試み。これまでの絵画・彫刻の難しい作品鑑賞と違い、作品をより身近かに感じさせてくれました。また同じ動きでも音楽や照明、衣装、メイクによって雰囲気

が全く異なることを体験。  
別の講座ではカラージュ。雑誌のヌード写真も切り抜いて身体の曲線の部分を繋げて全く新しいかたちを作り上げ、のりで張りあわせると遠目にはヌードと分からないオシャレなパネルに。  
六月四日から八月十八日、京都国立近代美術館では「身体の表現一九二〇—一九八〇」が開かれます。これはパリ・ポンピドーセンター所蔵の絵画など百二十点を展示。ちよっとお立ち寄りになられてはいかが。

韓国からの手紙

— 富田慶子様 —

拝啓、はや、今年も4月がやってまいりましたね。先の手紙よりご無沙汰致しております。お元気にお過ごしですか。

富田様のクリスマスカードと先月の手紙を受け取りました。いつも、お返事を出しませんが、富田様からの手紙を受け取るのはほんとうに嬉しいことです。

新年のお雑煮とお屠蘇は飲みましたか。

昨年の方はいろんな事でとても忙しく、辛かったです。身の周りで難しい事が続き、精神的にも厳しく忙しかったので、返事を書く余裕がありませんでした。すみませんでした。ちょっと、大目に見て下さいね。

今の世の中、障害者が生きていくのは大変ですね。しかし、健常者の何倍もの努力で、私たちの困難を克服していけると思っています。

私は毎朝、家から北へ2.5Km程離れた総合市場(北区七星市場)の店へ行き、印を彫っています。多くの人たちが通って来る所ですので、収入は良い方だと思っています。また、東区駅前市場にも昨年印章店を開店して、女性事務員を一人雇用しました。私の妻は、印章外務をして私の大きな力になっています。ですから、私たちはこのとこ

ろ本当に忙しく仕事をしています。それで、英語や日本語の勉強をする時間が不足しています。もちろん、奉仕協会の役職も休みました。困っている人を助けるのが私の時間不足で出来なくて…。しかし、これからも時間の余裕が出来れば、ぜひ奉仕活動をしたいと思っています。

ところで、障害者のこどもの教育や養育は、どこの国でも難しいと思っています。

韓国にもたくさんの障害者のこどもがいて、難しいこともたくさんありますが、喜びの心で養育し、生活をしています。すべての国の人たちの皆さんも、頑張っていて欲しいと思っています。

さて今回は、私が富田さんのために棗の木で彫った「幸運の印」と、大邸市とライオンズクラブが共同で設立した有名な障害者の福祉館の冊子を送ります。また、私の妻と息子たち(長男=初等学校5学年・次男=初等学校1学年)の写真も同封します。

韓国の春では、黄色い連翹の花等が咲き始め、ほんとうに美しいです。

お体を大切にお過ごし下さい。

お便り、お待ちしております。

馬 泰 植

1996. 4. 28

Ma tae sik

**Heart, Fly! OSAKA '97**  
**The 33rd National Sports Festival**  
**of Persons with Disabilities**  
**“The FUREAI-pic Games in Osaka”**

アメリカからのお便り

あなたの日常がすべてうまくいっていますように。あなたがアメリカとカナダの風景に興味を持っていらっしゃるのかも知れないと思いました。

イースター おめでとうございます。

私は子供のために卵を隠します。去年は懐中電灯を持って夜のうちに隠したんですよ。

パトリア トラッキー

I hope you are all doing ok. Thought you might be interested in seeing the U.S. and Canada.  
Happy Easter.  
I will hide eggs for my kids. last year we did it at night by flashlight.



Post Card

Keiko Tomito  
6-3-26 Hannak cho  
Abeno-ka Osaka  
Japan 545



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」

○サロン淀川 6月の出会い

日時・平成8年6月16日(日)

午後1時30分~4時

場所・淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」

[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

テーマ・「音楽と子供たち」

パネラー・大阪府立堺高等学校音楽科教師

安田美和子氏

会費・なし

問い合わせ先・

淀川区社協ボランティア・ビューロー

☎06-394-2900

■「サロンつるみ」

○サロンつるみ 6月の出会い

日時・平成8年6月9日(日)

午後1時30分~4時

場所・大阪市立鶴見会館

[鶴見区横堤5-5-51]

テーマ・「ピリオドのない思い」

ゲスト・トーマス・C・カンサさん

南アフリカ共和国出身。詩人。

英和対訳詩集「抑圧下の子よ 話してごらん」自費出版

会費・無料

問い合わせ先・鶴見区社協・ボランティアビューロー、

TEL06-913-7070・FAX06-913-7676 (担当=藤井・山本)

お知らせ

サロン・あべの6月の出会い

「梅雨どき、ひととき、語りどき」

~福角幸子&南光仁子 語りジョイント~

ゲスト=住永章子・井口&桐村バンド

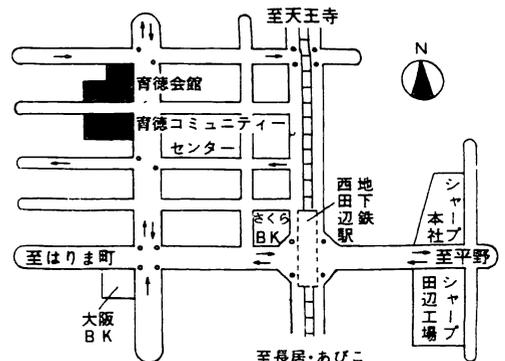
日時=6月15日(土)午後1時~4時

会場=育徳会館3階 「幸分ホール」

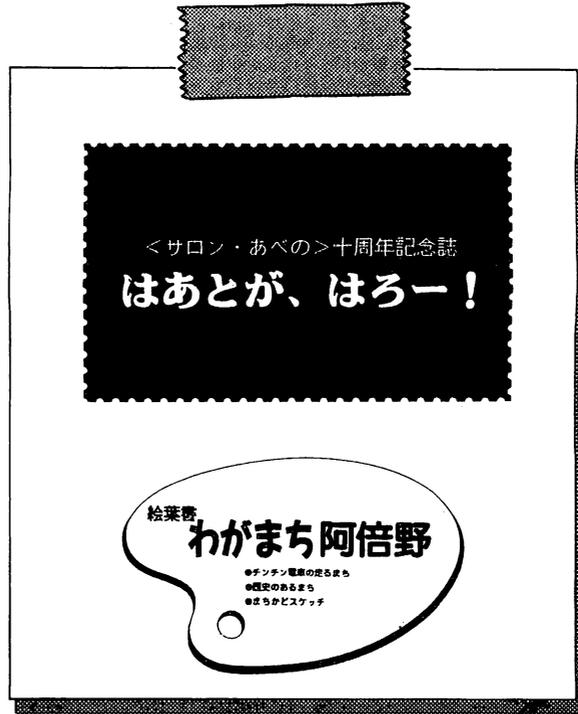
(阿倍野区阪南町5-12-5)

お申し込み・お問い合わせ先

☎06-691-1028 (富田慶子)



これ、いいね。



2

十年一昔

小倉 寛一

昨日は、△サロン・あべのV十周年記念

誌、並びに思い出の多い「わがまち阿倍野」のスケッチ絵葉書等お送りいただき、拝見させていただきました。ありがたく御礼を申し上げます。

町内は建物などが変わってはつきり記憶がありませんが、チンチン電車の駅や踏切はまだ頭に残っております。阿倍野区も八

年前とは大きく変わったと思います。十年一昔と云いますが、昔の十年と現在の十年とは更に異なると思います。

サロンの皆様の並々ならぬご努力によって立派な十年記念誌ができて上がり、本当におめでとございます。その中に私の何んでもないお手伝いの記載があり、赤面と云うかお恥ずかしい次第です。カーニバル景色が目あたりに浮かんできました。あの時は本当に暑い日でした。炎天下の皆様を見て何とかしてあげたい心で一杯でした。幸いにトラックの上に積んであるシートを見付け、頼んだところ快く貸して下さいまして、手伝いまでして下さい助かりました。

困っている人を見ると何とか出来ないかと思う気質になって、戦場でもよく困っている土地の人を手当てしたり、物をやり取りしました。戦友からも笑われましたが、兵種も衛生兵で赤十字精神の教育を受けたからかもしれません。

老人会や傷痍軍人会などいろいろな集まりに参加していますが、もう最高齢者になりました。今暫く元気ではないと思っ

康には出来るだけ気をつけております。  
気候の変わり目、きばってご無理をなさ  
いませぬ様に・・・

夢を見ながら

金子花江

桜の季節も終わろうとしていますが、障  
りなくサロンのお世話やその他何かと活  
躍で、陰ながらお慶び申し上げます。

このたびは、またすてきな十周年記念誌  
を出版されて本当におめでとうございまし

た。病気の関係で、まだ全部拝読できない  
でありますけれど、とてもすばらしく内容  
の豊かな冊誌を発行されたものと、このご  
努力にもびつくりしております。本当にサ  
ロン誌は前進しておりますね。ペンの上で  
こう申し上げるのが精いっぱい自分の情  
けなく哀しくなります。

月二回程老人センターという処へいつて  
おりますが、こういう会合に出て色々な人  
に会いますと(勿論老人ばかりです)、私  
はかえって気がめいります。人生の末路と

今年、十周年をむかえる「浪速津南阿部野  
薪能」が五月十五日(水)午後五時三分  
から、阿部野神社境内で催される。今回は  
阿部野ゆかりの「松虫」と、多くの人に親  
しまれている「羽衣」、それに狂言「太刀  
奪」が演じられる。

今年、十周年をむかえる「浪速津南阿部野  
薪能」が五月十五日(水)午後五時三分  
から、阿部野神社境内で催される。今回は  
阿部野ゆかりの「松虫」と、多くの人に親  
しまれている「羽衣」、それに狂言「太刀  
奪」が演じられる。

阿部野がまち阿倍野

○歴史のあるまち

○チンチン電車の走るまち

○まちかどスケッチ

きりぎりす楳一五郎



阿部野神社の薪能

わがまち阿倍野 絵はがき散歩②

いうものをつくづく考えてしまいます。病  
気さえなければ、本当にひとりで暮らした  
いと思つています。自分の好きなような暮  
らし方を少しでもしてから死にたいな  
なんて願つてますが、みんな夢です。

はあとが、はろー！ 十周年記念誌感想

サロン淀川 窪田新一

あたりまえのように十年が過ぎていき、  
あたりまえのようにサロンに関つてきた人  
たち、互いに理解し合い励まし合い十年の  
集大成。様々な人たちの出会い、ふれあい  
があり、助け合いが生まれました。

△サロン・あべのVの活動に大きな感銘  
を受けて、今では鶴見区・東淀川区・淀川  
区でサロン活動が行われています。

今年、第五回全国ポランティアフェス  
ティバルが大阪で開催されます。この貴重  
な歩みのサロン活動を日本全国に広めてく  
ださい。これからも、ますますご活躍くだ  
さいますよう、お願いいたします。

△さろん亭Vの品物そろそろ  
「用意お願いします……ね。」

## 美智子のこんな話

岸田 美智子

異性介護をなくすためには

身体障害者の入所施設で根強く残っている問題のひとつに、異性介護の問題があります。この問題については、いろいろな角度から前に書いた事がありますが、その見方のひとつとして、男性の感受性が問題なのではないかという見方ができると思います。この男性の感受性、つまり「性的積極性」について詳しく書かれている日本経済新聞の記事がありますので、掲載します。皆さんもぜひ一度、考えてみて下さい。

### ●「男性の介護者イヤ」

たとえばフランスではホームヘルパーの一割を男性が占めるまでになっている。ところが、日本では家庭でも家庭外の職業としても介護を担う人の大半は女性。なぜ男性介護者が増えないのか。東京学芸大学助教授の山田昌弘氏（感情社会学）は、その一つの答えとして、異性に触る一触られることが苦手な日本文化の特徴に言及する。

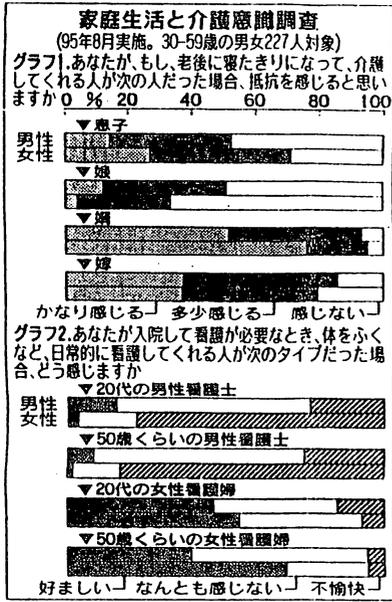
### 担い手変わらず

男子学生に「親が寝たきりになった時世話をするか」と質問すると大半の学生はイエスと答える。そこで、「下の世話とか体をふくとか、あんたがやるんだよ」と言う。と、決まって、「それはできない」という。奥さんにやってもらうとか、役所に頼むとか、とにかく自分の手で介護するのはいやだという。男性の介護意識はこのようなものである。

妻、嫁、娘など立場は違っても、家族の中での介護の主な担い手は、女性である。高齢社会が到来し、彼女たちの負担が限界に達しようとしている現在、介護負担の社会化の必要性が叫ばれている。

しかし、家族の中の女性の介護負担を軽減したとしても、家族の外で介護に携わる人（介護福祉士、付添婦、看護婦、介護ボランティア）の大多数は、やはり女性なのである。現状では、介護の社会化は、家族の女性の負担を社会の女性の負担に置き換えることになってしまう。

なぜ、男性は、家族の中でも外でも介護をしないのだろうか。さまざまな理由が考えられるが、一つに、身体接触に伴う「恥ずかしさ」という感覚がネックになっていることがあげられよう。高齢者介護は、必然的には身体接触、つまり、裸をみたり、体にさわったりすることを伴う。そして、その場合、男女とも、男性よりも女性に介護されたいと感じる現実がある。グラフは、私が、文部省の助成を受け九五年に東京小金井市で行った調査の一部だ。



母性が抵抗薄める

この調査結果をみても分かる通り、家族であろうと、他人であろうと、男性にケア（介護や看護）されることにに対する抵抗感が強い。それは、触る——触られるということに対する身体感覚が、男女によって質的に異なるからだ。例えば母と娘など大人の女性同士が腕を組んで買い物に行ってもおかしくない。しかし、大人の男性同士、父と成人した息子が同じ事をしたら、異様な目でみられるだろう。似たことが、介護の現場でも起こる。

性的パートナー以外の人に、裸をみられ

たり、触られることは、だれしも恥ずかしいことである。しかし、女性が触るのは、女性が母性的でやさしい存在だと思われるから、抵抗感は薄められる。しかし、男性は、性的に積極的な（いやらしい）存在だと思われる。それゆえ、介護の場面で、男性がやさしくさわると、男性にそのつもりがなくても、介護される側に恥ずかしいという感覚を与えてしまう。

セクハラまがいも

男性の「性的積極性」は、介護される立場になったときも問題になる。ある若い看護婦にインタビューしたところ、おしりや胸をさわるなど男性患者のいやらしさには閉口するという。先輩には「それで患者が元気になるなら我慢しなさい」と言われるが、納得できないという。

まさに、セクハラに類似したことが行われているのだ。女性が触られたと感じるがゆえに、男性が女性の介護を好むという傾向があることは否定できない。

男性は、性的な意味で女性に介護さ

れることを望み、女性は、性的な意味で男性に介護されることをいやがる。それが、家族の内外で、介護の担当者が女性になってしまう大きな原因なのである。

高齢者介護の問題とセクシユアル・ハラメントの問題は、「身体接触感覚の性差」という点でつながっている。やさしさからさわる、性的興味からさわる、この両者を区別する訓練が、男性に必要なようになってくる。

△連絡先▽

ライフ・ネットワーク

大阪市住吉区大領五十一番十六

TEL 06-6718-2600

サロン紙上でおなじみの岡 知史氏のエッセーが、大阪ボランティア協会でもとめられ「ほんの少しの神に近い部分」として発行されました。

これは、「知らされない愛について」に続く二冊目、ともに好評をいただいています。

イラストは、二冊とも石田美穂子さんです。

頒 価 11700円

・ 問合わせ先 TEL 06-6718-2600 (一〇二八) 富田

1冊100枚綴 ¥150



手紙を書くというと、どうしても構えてしまっていて・・・という入  
贈り物をする時や、本や写真を送る時などにひと言添えたい場合  
便利なのがこの一筆箋です。  
文字通り「一筆」を書くための小さな便箋なのです。  
ゆっくりといねいに書く時間がなくても、これがあれば一番に伝え  
たい「ひと言」をすぐに添えることが出来ます。  
「生きた言葉」が伝わります。

## サロンの一筆箋



鮎の姿をいうのに優雅、清楚が、  
泳ぐ様には、りりしい、矢のごと  
しなど澆瀾さを表す言葉が使われ  
る。味が一種の香気をもつところ  
から香魚とも。姿も味も川魚の王  
なになんでも「かるた」です。

懸持き 巻末毎二五円



## 感謝



カンパ、お茶菓子、CD、楽譜、写真、  
冊子、バザー用の品等のご寄贈。一筆箋、  
絵葉書、十周年記念誌、エッセー集等、お  
買い上げありがとうございました。

お礼を申し上げます。

安達尚子、岡 賀寿子、奥田真祐美  
金子花江、猿田 博、澤田妙子、  
秀 翠、杉山篤枝、土屋由美子、  
中西佐知子、滝本涼子、山田絹代、  
その他多数の方々

## FROM EDITOR

編集後記

3月29日に出したサロン・あべの十周年記念誌「はあと  
が、はろー！」と絵葉書「わがまち 阿倍野」をご覧にな  
った方から— これ、いいね。— のお便りがたくさん寄  
せられています。前号に続いての掲載です。もし、まだご覧になっていない方がいらっしや  
いましたら、ぜひ。そしてご感想をお寄せください。 (石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.119[ '96. 5.18.発行] 定価 ¥100.

代 表；上平幸雄 〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365

連絡先；富田慶子 〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028

表 題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子

郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941

印 刷；セルフ社 〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスタビル2F ☎06-719-8212 ☎06-719-8213